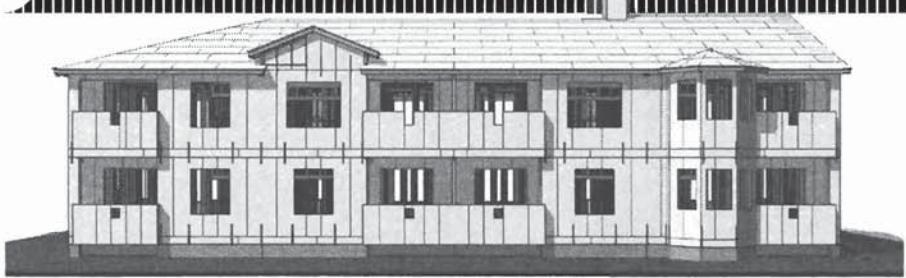


注目度高まる賃貸住宅市場

2×4プレカットで開拓を



賃貸住宅需要は高水準で推移すると予想されている

賃貸住宅大手の大東建託は、建託は11年に発刊したCSRレポートで、賃貸住宅需要は2030年まで年平均40万戸で推移するとの興味深い予測を発表した。賃貸住宅の世帯数は2015年まで増加し、その

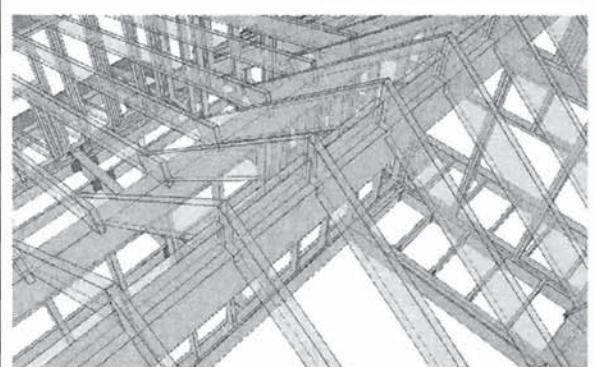
賃貸住宅大手の大東建託が、建託は11年に発刊したCSRレポートで、賃貸住宅需要は2030年まで年平均40万戸で推移するとの興味深い予測を発表した。賃貸住宅の世帯数は2015年まで増加し、その

30年まで年間40万戸

後減少傾向を辿るもの、30年は1815戸と08年の1777万戸よりも増える。一方、建て替えが必要な築30年以上の住宅は08年時点でも26万戸あり、これが徐々に滅失していくこと、30年には予想される世帯数に対し825万户の不足が生じる。これを新築で埋め合わせると、年平均40万戸になるという試算だ。過去15年間で年平均40万戸が減失している事実も予測を裏付けるという。

大手住宅会社も受注に力を入れている。今期の連結業績を上方修正した大和ハウス工業は、賃貸住宅(前期比12%増)の伸びが売り上げをけん引している。東日本大震災の被災地でも賃貸アパートの需要が拡大しており、積水化学や住友林業、ミサワホームなどが供給体制を強化している。エス・バイ・エルもさきごろ賃貸住宅市場への本格参入を表明した。

堅調な建て替え需要



CGベース図。半透明で加工形状までくっきりと見える。特に養護老人ホームは全国6000カ所に42万人が入所しているが、その数は圧倒的に不足している。民間からの参入が多く、60歳以上の高齢者施設は地方へ拡大

高齢者施設は地方へ拡大

高齢者施設は

高齢者施設は